

【生活科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

○印は改善が見られた点、△印は課題が残る点

<p>○スタートカリキュラムを基に学習内容を編成することで、幼稚園児や保育園児が早い段階で小学校に慣れ、児童が入学当初から学びに向かうことができた。</p> <p>○身の回りの自然物や物を使った遊びを取り入れることで、知識や経験が豊かになり、気付きを深められた。生活科の学習を楽しみにしている児童が非常に多い。</p> <p>△意見や考えを共有するグループ学習の関わり方を具体的に示していたが、発達段階に差が見られ、個々のよい気付きを共有できない児童も見られた。</p>

2 学習状況の分析と課題

	関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
学習状況の分析	<ul style="list-style-type: none"> 自分の育てている植物や生き物の成長を楽しみにしながら、大切に世話をすることができた。 生き物や自然に親しみをもって活動したり、学校の中の人や地域に愛着をもって関わったりすることができた。 自分の成長の様子に関心をもち、これからの成長に思いや願いをもち、進んで学んだり、生活を豊かにしようとしたりすることができた。 もっと知りたい、もっとやってみたいという気持ちをもって活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節の変化について考えたり、自然物を使って遊びを考えたりすることができた。 相手の立場を考えて、学校のことを伝えたり、一緒に活動したりすることができた。 植物の色、大きさ、形などに着目し、気付いたことを絵に描き表したり、身の回りのものと比べて、「○○のように」「○○のいくつ分」など例えたりしながら変化を自分なりに観察カードに記録することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節の変化や自然の不思議さ、自然の中で遊ぶ楽しさ、それらと自分との関わりに気付くことができた。 花や野菜も生命をもっていること、成長することや変化することに気付くとともに、植物を育てることの楽しさや収穫することで食の楽しさに気付くことができた。 自分の成長や周囲の人の支えに気付くことができた。 見付ける、比べる、例えることが日常的にでき、理科の素地を養うことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 校庭や学区の自然に十分関わりをもたせ、季節や自然を生かした活動や共通体験を多く取り入れる。 児童たち自身が見付けたり、比べたり、例えたりする活動を意図的・計画的に取り入れ、知的な気付きができるように展開する。 自分の気付きを友達の気付きと比べながら、考えを広めたり、深めたりして確かなものにしていく。 		

3 授業の具体的な改善策

目標	<p>新学習指導要領の教科の目標</p> <p>具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会および自然の特徴やよさ、それらの関わり方等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。</p> <p>(3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。</p>
全体	<p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <p>教科書を読んで学ぶことにとどまることなく、実際にいろいろな活動を体験させることを充実させ、感覚諸機能を養うとともに、コミュニケーションを図り、自分自身とその他の人との関わりを学んでいけるようにする。体験活動を行う際には、教師が児童の気付きを引き出し、全体に共有する場を作ったりして、主体的な活動になるようにする。</p>
	学年別改善策
第一学年	<p>【身近な環境や自分についての気付きの習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的に人や自然と関わる活動や体験の時間を多く設ける。 <p>【生活への関心・意欲を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が、興味をもって体験したり、活動したりできるように、教材の充実や時間の確保を行う。 <p>【豊かな生活になるよう考え、表現する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の中で、児童が何を学んでいるかを教師が見取り、援助しながら気付きの質を高める。 国語の「話すこと・聞くこと」の学習で培った力を活かして、自分の気付いたこと、考えたこと、不思議に思ったことなどを友達に伝えたり、友達の話したことについて反応を示したりできるように、うなずきや簡単な言葉を使うよう示していき、できている児童を見付け、それを全体で共有していく。話し合いが進まないグループには、教師が助言や、言葉を補足していく。
第二学年	<p>【身近な環境や自分についての気付きの習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学的な見方・考え方を育てる素地となるような体験を充実させる。 身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びや遊びに使うものを工夫して作ることを通して、素材に十分触れさせていく。 <p>【生活への関心・意欲を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで育てた野菜を観察、収穫する活動を行う際に、何を育てたいか、どのような物が必要なのかなども児童に話し合わせるなど、児童が願いをもって活動できるようにする。 <p>【豊かな生活になるよう考え、表現する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の中で、児童がどんな思いをもち、どのような気付きをして工夫しようとしているのかを見取り、価値付けすることで気付きの質を高める。 伝え合う活動では、自分の思いを伝えるだけでなく、友達の話したことに対して自分の考えや気持ちを伝えるなど言葉で反応を示せるように、話し合いの中での良い表現を取り上げ、全体で共有、練習、掲示などに表示していく。そして語彙を増やし、表現力を高めていく。話し合いが進まないグループには、教師の助言、言葉掛けをしたり、時間を十分に確保したりして、丁寧に取り組めるようにする。